

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-016726

(43)Date of publication of application: 24.01.1991

---

(51)Int.Cl.

B32B 15/08

// B05D 7/14

---

(21)Application number : 01-152823 (71)Applicant : KAWASAKI STEEL CORP

(22)Date of filing : 15.06.1989 (72)Inventor : MORI TAIZO

TOTSUKA NOBUO

KURISU TAKAO

SADO HIDEAKI

---

(54) LUBRICATING RESIN-TREATED STEEL PLATE WITH EXCELLENT MOLDABILITY

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve corrosion resistance and lubricity of a steel plate by chromate-treating a zinc or zinc alloy plated steel plate or an aluminum plated steel plate, and then forming a lubricating resin film.

CONSTITUTION: Films are formed 200mg/m<sup>2</sup> or less of adhering amount of a chromate film on one side surface at a conversion rate to metallic chromium on both side surfaces of a zinc plated steel plate, an aluminum plated steel plate, etc. Thereafter, lubricating resin films of resin mixture or composite compound in which 10-80 pts.wt. of silica and 20 pts.wt. or less of polyolefin wax having 1-7 $\mu$ m of average particle size are added to 100 pts.wt. of resin having hydroxyl group or carboxyl group are formed 0.3-3.0g/m<sup>2</sup> of adhering amount by dry weight on one side surface on both the side surfaces. Thus, a lubricating resin-treated steel plate having excellent moldability is obtained.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-16726

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 32 B 15/08  
// B 05 D 7/14

識別記号 庁内整理番号  
G 7148-4F  
J 8720-4F

⑭ 公開 平成3年(1991)1月24日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全8頁)

⑮ 発明の名称 成型性の優れた潤滑樹脂処理鋼板

⑯ 特 願 平1-152823

⑰ 出 願 平1(1989)6月15日

⑱ 発 明 者 毛 利 泰 三 千葉県千葉市川崎町1番地 川崎製鉄株式会社技術研究本部内  
⑱ 発 明 者 戸 塚 信 夫 千葉県千葉市川崎町1番地 川崎製鉄株式会社技術研究本部内  
⑱ 発 明 者 栗 栖 孝 雄 千葉県千葉市川崎町1番地 川崎製鉄株式会社技術研究本部内  
⑱ 発 明 者 佐 渡 英 昭 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2番88号 川崎製鉄株式会社阪神製造所内  
⑲ 出 願 人 川崎製鉄株式会社 兵庫県神戸市中央区北本町通1丁目1番28号  
⑳ 代 理 人 弁理士 渡 辺 望 稔 外1名  
最終頁に続く

明 細 書

3. 発明の詳細な説明

1. 発明の名称

成型性の優れた潤滑樹脂処理鋼板

<産業上の利用分野>

本発明は自動車、家電、建材製品等に使用される表面処理鋼板であって、成型性にすぐれた潤滑樹脂処理鋼板に関する。

2. 特許請求の範囲

亜鉛または亜鉛系あるいはアルミニウム系合金めっき鋼板上に、クロム付着量が、金属クロム換算で片面で200mg/m<sup>2</sup>以下のクロメート皮膜を両面に有し、その上に、下記組成の樹脂混合物または複合物で、その付着量が、片面で乾燥重量で0.3~3g/m<sup>2</sup>である樹脂被膜を両面に有することを特徴とする成型性に優れた潤滑樹脂処理鋼板。

樹脂混合物または複合物の組成

水酸基および/またはカルボキシル基  
を有する樹脂 100重量部  
シリカ 10~80重量部  
平均粒径が1~7μmの  
ポリオレフィンワックス 20重量部以下

<従来の技術>

自動車、家電、建材製品等に使用される鋼板、特に亜鉛または亜鉛系合金めっき鋼板のよくなめっき鋼板は、無塗装または塗装して使用するが、それまでに種々の工程を通り、しかもその間に、かなり長時間にわたって無塗装の状態でおかれる。そのため、その間に錆が発生したり、めっき鋼板表面に種々の物質が吸着、付着したりして、塗料の密着性が悪くなるなどの問題がある。

従って、めっき鋼板が必要家で使用されるまでの一次防錆処理として、クロメート処理が施される。しかし、このクロメート処理の耐食

性は、一般に、塩水噴霧試験で高々24～48時間程度であり、また、特殊クロメート処理であるシリカゾルを添加した塗布型クロメート処理でも、塩水噴霧試験で100～200時間の耐食性しか得られない。従って、長期にわたって苛酷な腐食環境下で使用される製品では耐食性が不十分である。

製品が苛酷な腐食環境下で使用される場合を考慮して、クロメート処理の代わりにリン酸塩処理を施した後、20 $\mu$ m厚程度の塗装を施し、腐食を防止する方法がある。しかるに、このような厚塗り塗装を施した場合には、鋼板にプレス加工等を施したとき、塗膜の剥離や亀裂を生じ、その部分で局所的な耐食性の低下を生じる。また、塗装板では、スポット溶接などの溶接が困難または不可能になるので、溶接部は予め塗膜の除去が必要になる。さらに塗膜を厚くするほど多くの塗料を消費し、コストアップを招く等の問題もある。

従って、塗料を用いることなく、それ自体優

10g/m<sup>2</sup>有することを特徴とする耐食性および潤滑性に優れた2層クロメート処理鋼板(特公昭62-24505号公報)。

(2) 亜鉛系めっき鋼板上にクロメート被膜を有し、その上にシリカ粉末、親水性ポリアミド樹脂および潤滑剤としてポリエチレンワックスを含有するウレタン化エポキシエステル樹脂層を0.3～5 $\mu$ m有することを特徴とするカチオン電着塗装性に優れた有機複合鋼板(特開昭63-35798号公報)。

(3)  $\gamma$ 層単層のみからなるニッケル含有亜鉛めっき鋼板上にクロメート被膜を有し、その上に、導電顔料としてリン化鉄、潤滑剤としてポリオレフィン系化合物、カルボン酸エステル系化合物、ポリアルキレングリコール系化合物から選ばれた化合物と塗料用樹脂とを含有する塗膜層を1～20 $\mu$ m有することを特徴とする耐食性塗装積層体(特開昭62-73938号公報)が開示されている。

れた耐食性を有する表面処理鋼板の開発が望まれている。

また、鋼板をプレス成型するに際しては、潤滑油を鋼板表面に塗布するが、この作業は脱脂工程があるため、加工時に潤滑油などを使用せずにプレス加工できる表面処理鋼板の開発も望まれている。

さらに、需要家が、従来の表面処理鋼板を用いて種々の工程を経て製品を製造する場合作業者のハンドリング等により、鋼板の表面に指紋などの汚れが付着し、商品価値を著しく低下させることがある。従って、ハンドリング時に指紋などの汚れが付き難い表面処理鋼板の開発も望まれている。

このような背景の下で、従来技術として、

(1) 亜鉛系めっき鋼板上にクロメート被膜を有し、その上に、複合リン酸アルミニウム、クロム系防錆顔料と、潤滑剤としてポリオレフィンワックス、二硫化モリブデン、シリコンとを含有するウレタン変性エポキシ樹脂層を1～

(1)～(3)のいずれもが、クロメート被膜上に、潤滑剤としてポリオレフィンワックス系化合物を含有する潤滑樹脂被膜を有することを特徴とする耐食性、潤滑性に優れた2層型被膜処理鋼板である。

#### <発明が解決しようとする課題>

上記従来技術における2層型被膜処理鋼板の潤滑性は、低速プレス成型(～5mm/sec.)に対しては有効であるが、実プレス成型(250mm/sec.程度)における苛酷な成型条件では、プレス時に摺動面が高温(70℃以上)になり、樹脂被膜層が剥離し易くなり、樹脂剥離粉が金型、プレス成型品表面に付着し、連続成型性および加工後の外観を損なうという問題がある。

本発明は、上述した従来技術の欠点を解消し、高速プレス成型時において、連続成型性に優れた表面処理鋼板、特に、プレス油無で成型可能であり、ハンドリング時に指紋等の汚れが

付き難い表面処理鋼板を提供することを目的とするものである。

#### ＜課題を解決するための手段＞

前述した従来技術に見られるように、鋼板表面にクロメート処理後、潤滑性樹脂系被膜を形成させることにより、亜鉛または亜鉛合金めっき鋼板の耐食性、潤滑性を向上させることができる。

本発明者らは、これらの従来技術の長所を生かしつつ、高速プレス成型下でも潤滑性が良好な有機樹脂被膜を鋭意検討した結果、水酸基および／またはカルボキシル基を有する樹脂中にシリカを含有させることにより、耐食性が向上し、固形潤滑剤として、ポリオレフィン系ワックス、フッ素系添加剤のうち、平均粒径が1～7 $\mu$ mのものを含有させることにより、高速プレス成形下で潤滑性が良好な被膜が得られることを見出し、本発明に至った。

本発明は、亜鉛または亜鉛系合金めっき鋼板

5%アルミニウム-亜鉛溶融めっき鋼板等の各種亜鉛系めっき鋼板およびアルミニウム系めっき鋼板等を挙げることができる。

めっき鋼板両面のクロメート被膜は、公知の通常のクロメート被膜でよく、例えば、無水クロム酸、クロム酸塩、重クロム酸等を主剤とした水溶液や、上記水溶液にコロイダルシリカ等を混合した処理液をめっき鋼板上に、公知の通常の方法で処理したクロム水和酸物主体の被膜である。

本発明の成型性に優れた潤滑樹脂処理鋼板は、前記のクロメート被膜上に、次のような組成および付着量の有機樹脂被膜を両面に有する。

即ち、水酸基および／またはカルボキシル基を有する樹脂と、該樹脂100重量部に対し、シリカ10～80重量部と、固形潤滑剤として、平均粒径が1～7 $\mu$ mのポリオレフィンワックスを20重量部以下含み、かつ、該樹脂混合物または複合物の付着量が片面で乾燥重量

あるいはアルミニウム系めっき鋼板上に、クロム付着量が、金属クロム換算で、片面で200mg/m<sup>2</sup>以下のクロメート被膜を両面に有し、その上に、下記組成の樹脂混合物または複合物でその付着量が、片面で乾燥重量で0.3～3g/m<sup>2</sup>である樹脂被膜を両面に有することを特徴とする成型性に優れた潤滑樹脂処理鋼板。

#### 樹脂混合物または複合物の組成

- ・水酸基および／またはカルボキシル基を有する樹脂 100重量部
- ・シリカ 10～80重量部
- ・平均粒径が1～7 $\mu$ mポリオレフィンワックス 20重量部以下

を提供するものである。

以下に、本発明の成型性に優れた潤滑樹脂処理鋼板について、詳細に説明する。

本発明で対象とする潤滑樹脂処理鋼板の素材としては、電気亜鉛めっき鋼板、電気亜鉛-ニッケルめっき鋼板、溶融亜鉛めっき鋼板、

で0.3～3.0g/m<sup>2</sup>の被膜である。

本発明の潤滑樹脂混合物または複合物に使用するベース樹脂は、水酸基および／またはカルボキシル基を有する樹脂であるが、このような樹脂としては、エポキシ樹脂、アルキド樹脂、アクリル樹脂、ウレタン樹脂、フェノール樹脂、メラミン樹脂、ポリビニルブチラール樹脂等があげられる。

本発明におけるこれらの樹脂の有用性は、以下の点にある。

即ち、該潤滑樹脂処理鋼板は、耐食性を向上させるために、シリカー樹脂の無機有機複合被膜を形成させたものであるが、シリカ表面の水酸基と反応して高耐食性被膜の形成が可能な活性基として、水酸基カルボキシル基が望ましいからである。

シリカは、該潤滑樹脂処理鋼板の耐食性を向上させるために配合するが、コロイダルシリカ、例えば、スノーテックス-Oやスノーテックス-N（いずれも日産化学社製）等や、オル

ガノシリカゾル、例えば、エチルセロソルブシリカゾル（日産化学社製）等や、シリカ粉末、例えば、気相シリカ粉末（アエロシル社製）等や、有機シリケート、例えば、エチルシリケート等をもちいると良い。シリカ粉末の粒径はシリカを均一に分散させるために5～70 nmであることが好ましい。

またベース樹脂とシリカとの反応促進剤として、シランカップリング剤を用いてもかまわない。シランカップリング剤としては、γ-（2-アミノエチル）アミノプロピルトリメトキシシラン、γ-グリシドキシプロピルトリメトキシシラン等があげられる。

ベース樹脂中に反応促進剤、安定剤、分散剤等の一般的な添加剤を、本発明の趣旨を損なわない範囲で適宜添加することは差し支えなく、むしろ好ましい。

つぎに、潤滑性付与剤について説明する。

一般に、乾式潤滑剤としてはワックス、二硫化モリブデン、有機モリブデン、グラファイト、

との摩擦を低減し、樹脂被膜の損傷が防止され、連続成型性が向上する。突出した潤滑剤を用いることによりベース樹脂のガラス転移温度を40℃程度まで低下させることができる。

このような目的に合った潤滑剤について鋭意検討した結果、平均粒径が1～7 μmのポリオレフィンワックスが有効であることが分った。

高速プレス成型時、摺動面は高温となる。この時、ポリオレフィンワックスは潤滑剤として有効に働く。

ポリオレフィンワックスはポリエチレン、ポリプロピレン、ポリブテン等のオレフィン系炭化水素の重合体から成るワックスであればいずれでもよいしこれらを組み合わせて用いても良い。

またポリオレフィンワックスには種々の融点のものが知られているが、30℃～170℃の範囲で何れの融点のものを用いてもよい。低

ト、フッ化カーボン、金属セッケン、窒化ホウ素、フッ素樹脂等が知られており、これらは、軸受用潤滑剤として使用されたり、プラスチックや油、グリース等に添加して、潤滑性を向上させるために用いられている。そこで、これらの潤滑剤を用いて、潤滑性の優れた樹脂処理鋼板を得るための検討を行った。

本発明のように、高速プレス成型下という摺動部の発熱を伴う苛酷なプレス成型条件で、被膜剥離を起こさず、連続成型可能な高度の潤滑性を有する樹脂処理鋼板を得るためには、一般にベース樹脂のガラス転移温度が70℃程度以上と高くなければならないが、一方摩擦係数が小さく樹脂被膜表面に突出した潤滑剤を含有する樹脂被膜も有効であることが分った。このような潤滑剤を用いることにより、金型との摩擦衝撃を潤滑剤が吸収することとなり、ベース樹脂のガラス転移温度を下げることも可能となるのである。そのような被膜で処理された鋼板では、鋼板上の樹脂被膜表面の潤滑剤が金型

融点と高融点のものを組み合わせて用いてもよく、一層加工性が良好となる。

続いて、被膜付着量や配合成分の配合量等の数値限定理由を述べる。

本発明では、クロメート被膜の付着量は、金属クロム換算で、片面で200 mg/m<sup>2</sup>以下とするのがよい。付着量が200 mg/m<sup>2</sup>を超えても、付着量の増加の割合に対し耐食性の向上効果が少なく、また処理液の劣化が激しくなり、表面外観が悪くなり、しかも被膜が厚くなることによりプレス成型性が低下するからである。

また、本発明で用いる樹脂混合物または複合物中の配合成分は、下記の割合で含まれていることが好ましい。

耐食性を向上させるためのシリカは、水酸基および/またはカルボキシル基を有する樹脂100重量部に対し、10～80重量部加えることが好ましい。10重量部未満では、耐食性向上効果が小さく、80重量部を超えると、

被膜硬度が高まり、成型時に型カジリを生じ、プレス成型性を低下させる。

潤滑性付与剤の添加量は、水酸基および／またはカルボキシル基を有する樹脂100重量部に対し、ポリオレフィンワックスを20重量部以下が望ましい。20重量部を超えると樹脂被膜強度が低下し、潤滑性が低下する。

以上に述べた成分を、以上に述べた割合で含有させ、ベース樹脂等の必須成分と、その他の添加剤を組み合わせていることが好ましい。

さらに、このような潤滑樹脂被膜の付着量は、片面で乾燥重量で0.3～3.0g/m<sup>2</sup>とすることが好ましい。

付着量が0.3g/m<sup>2</sup>未満では、鋼板表面の凹凸をうめきれず、耐食性の向上効果が小さい。また、3g/m<sup>2</sup>を超えると、耐食性の向上効果はあるが、被膜が厚くなることにより、プレス成型性が低下し、耐バウダリング性が低下し、かつ、経済的でないからである。

次に、本発明の成型性に優れた潤滑樹脂処理

の乾燥工程を経て、クロメート被膜が鋼板両面に形成される。

続いて、前記のクロメート被膜上に、上述した樹脂混合物または複合物からなる有機樹脂被膜を、以下の方法で形成させる。

各配合成分を所定量用意し、それらを混合・分散させて、物理的に均一とする。次に、好ましくはシランカップリング剤を加え、再び混合・分散させ、物理的に均一な樹脂混合物または複合物とする。

前記樹脂混合物または複合物をロール塗布、スプレー塗布、浸漬塗布、ハケ塗り等の公知の通常の方法によって、所定の厚さとなるように塗布し、通常50～180℃で、通常3～90秒間乾燥させる。

このようにして、本発明の成型性に優れた潤滑樹脂処理鋼板が製造される。

鋼板の製造方法について、その一例を詳細に説明する。

本発明で対象とする潤滑樹脂処理鋼板の素材としては、電気亜鉛めっき鋼板、電気亜鉛－ニッケルめっき鋼板、熔融亜鉛めっき鋼板、5%アルミニウム－亜鉛熔融めっき鋼板等の各種亜鉛系めっき鋼板およびアルミニウム系めっき鋼板などを挙げることができる。

本発明の成型性に優れた潤滑樹脂処理鋼板の製造にあたり、めっき鋼板上に施すクロメート処理は、公知の通常の処理方法に従えばよく、例えば、無水クロム酸、クロム酸塩、重クロム酸等を主剤とした水溶液中で、浸漬クロメート処理、電解クロメート処理をおこなえばよく、また、上記水溶液にコロイダルシリカ等を混合した処理液をめっき鋼板上に塗布する塗布型クロメート処理等を行って、クロム水和物を主体とする被膜を形成させてもよい。なお、めっき鋼板をクロメート処理液で処理した後、フラットゴムロール等で絞る工程や、熱風乾燥等

#### <実施例>

次に、本発明を実施例に基いて、さらに具体的に説明する。

(本発明例)

下記条件下で、本発明の潤滑樹脂処理鋼板の試験片No. 1～11を作成した。

#### 1)めっき鋼板の種類

##### A. 電気亜鉛めっき鋼板

板厚 0.8mm  
亜鉛めっき付着量 20g/m<sup>2</sup>

##### B. 電気亜鉛－ニッケルめっき鋼板

板厚 0.8mm  
亜鉛－ニッケルめっき付着量 20g/m<sup>2</sup>  
ニッケル含有量 12%

##### C. 熔融亜鉛めっき鋼板

板厚 0.8mm  
亜鉛めっき付着量 60g/m<sup>2</sup>

## 2)クロメート処理

前記各めっき鋼板の両面に、

CrO<sub>3</sub> 20g/l, Na<sub>2</sub>AsF<sub>4</sub>

4g/lなる組成のクロメート処理液をスプレー処理した後、フラットゴムロールで絞り、熱風乾燥した。クロメート被膜の付着量は、スプレー処理時間を調整して、表1に示す値(片面当り200mg/m<sup>2</sup>以下)とした。

## 3)樹脂被膜処理

表1に示す組成の処理液を、ロール塗布により、片面で乾燥重量で0.3~3.0g/m<sup>2</sup>となるように両面に塗布し、150℃で40秒間乾燥し、樹脂被膜を形成した。

(比較例)

前記各めっき鋼板に、本発明例と同様にクロメート処理を施し、その上に、表1に示す組成の処理液を、表1に示す付着量となるように塗布し、樹脂被膜を形成させ、試験片No. 12

い、白錆発生までに要する時間で評価した。

## (3)加工後耐食性試験

無塗油の試験片をエリクセンカップ絞り試験機で、下記条件にて絞り加工を施し、そのカップの絞り面に対し、塩水噴霧試験(JIS Z-2371)を行った。白錆発生までに要する時間で評価した。

プレス条件

・しわ押さえ圧 2トン  
・ポンチ径 33mmφ  
・プランク径 70mmφ  
・絞り比 2.12  
・絞り速度 500mm/sec.

前記の方法により作成された試験片No. 1~19について、上記の方法で、潤滑性、平板耐食性、加工後耐食性を試験・評価した。

結果は表2に示した。

表2から明らかなように、本発明の潤滑樹脂処理鋼板は、高速プレス成型時においても、連続成型性、潤滑性が良好であり、そのために、

~20を作成した。

(試験・評価方法)

## (1)潤滑性試験方法

無塗油の試験片を、エリクセンカップ絞り試験機で絞り比を変えて加工し、その限界絞り比を求めた。また、その時の耐パウダリング性を、ダイスに付着した剝離粉をセロテープで採取し、その程度から評価した。

プレス条件

・しわ押さえ圧 2トン  
・ポンチ径 33mmφ  
・プランク径 59~81mmφ  
・絞り速度 5mm/sec., 500mm/sec.

評価基準

◎:ダイス付着なし  
○:ダイス付着若干あり  
△:ダイス付着やや多い  
×:ダイス付着多い

## (2)平板耐食性試験

塩水噴霧試験(JIS Z-2371)を行

パウダリングが殆ど発生しない。また、加工後の耐食性も良好である。

表 1

No.		めっき 鋼板の 種 類	クロメート処理	樹脂混合物または複合物の成分組成						樹脂混合物 のガラス 転移温度 (℃)	樹脂混合物 の付着量 (g/cm <sup>2</sup> )
			金 属クロム換 算の付着量 (mg/cm <sup>2</sup> )	ベ ー ス 樹 脂		注2) シリカの配 合 割 合 (重量部)	ポリオレフィンワックス				
				種 類 注1)	配 合 割 合 (重量部)		種 類 注3)	平 均 粒 径 (μ)	配 合 割 合 (重量部)		
本 発 明 例	1	A	0	a	100	40	I	1.0	2	60	0.5
	2	A	20	a	100	20	II	2.0	5	50	1.5
	3	A	50	b	100	20	III	2.5	10	45	2.0
	4	B	100	b	100	10	I	5.0	15	90	3.0
	5	B	30	b	100	10	III	3.0	20	75	2.0
	6	C	50	c	100	30	I	4.0	2	70	3.0
	7	C	50	c	100	30	I	5.0	5	75	3.0
	8	A	100	c	100	50	II	1.0	10	80	0.5
	9	A	150	d	100	50	II	2.0	12	50	1.5
	10	B	200	e	100	80	III	3.0	18	60	2.5
	11	B	0	f	100	80	II	7.0	20	40	3.0
比 較 例	12	A	250	a	100	30	I	2.0	2	50	1.0
	13	A	220	b	100	40	II	3.0	5	90	1.8
	14	A	50	c	100	90	I	2.5	10	80	2.0
	15	B	30	a	100	25	II	0.5	8	70	1.5
	16	B	40	b	100	30	III	3.0	22	80	2.5
	17	C	50	e	100	40	I	2.5	10	35	1.5
	18	C	0	a	100	25	II	0.3	12	65	0.2
	19	B	40	a	100	30	III	2.5	6	70	3.5
	20	A	50	c	100	40	II	8.0	10	50	1.0

注1) a: カルボキシル変性エポキシ樹脂  
(カルボキシル基10モル%含有)  
b: ポリビニルブチラル樹脂  
c: ポリビニルホルマール樹脂  
d: ウレタン変性エポキシエステル樹脂  
e: 油変性エポキシエステル樹脂  
f: アクリル酸エステル樹脂

注2) アエロジル社製シリカ粉末(平均粒径: 20nm)

注3) I: ポリエチレンワックス  
II: ポリブテンワックス  
III: ポリプロピレンワックス

表 2

No.		潤滑性				平 板 耐 食 性 (時間)	加 工 後 耐 食 性 (時間)
		低 速 (5mm/sec.)		高 速 (500mm/sec.)			
		限 界 絞 り 比	耐バウダ リング性	限 界 絞 り 比	耐バウダ リング性		
本 発 明 例	1	2.20	⊙	2.38	⊙	500以上	140
	2	2.20	⊙	2.38	⊙	500以上	200
	3	2.30	⊙	2.42	⊙	500以上	200
	4	2.30	⊙	2.42	⊙	500以上	200
	5	2.38	⊙	2.45	⊙	500以上	200
	6	2.20	⊙	2.38	⊙	500以上	200
	7	2.20	⊙	2.38	⊙	500以上	200
	8	2.30	⊙	2.42	⊙	500以上	140
	9	2.30	⊙	2.42	⊙	500以上	200
	10	2.40	⊙	2.45	⊙	500以上	200
	11	2.40	⊙	2.45	⊙	500以上	200
比 較 例	12	2.20	⊙	2.38	△	500以上	200
	13	2.20	○	2.40	△	500以上	200
	14	2.20	△	2.32	×	500以上	72
	15	2.10	○	2.15	○	500以上	200
	16	2.40	△	2.45	×	500以上	140
	17	2.40	△	2.45	×	500以上	140
	18	2.10	○	2.15	○	100	72
	19	2.40	△	2.45	×	500以上	200
	20	2.30	○	2.38	×	300以上	140

## &lt; 発明の効果 &gt;

本発明によれば、高速プレス成型時における潤滑性が良好なため、連続成型性に優れる表面処理鋼板を提供することができる。

また、プレス加工時に、プレス油等の潤滑油を使用せずに、そのままプレス加工が可能であり、ハンドリング時に指紋等の汚れが付き難い表面処理鋼板を提供することができる。

さらに、プレス加工時の潤滑性を良好とするために、従来、需要家において行われていた潤滑油の塗布作業や脱脂処理を省略でき、そのために、コストダウンが図れる。

特許出願人 川崎製鉄株式会社

代理人 弁理士 渡辺 望 悠

同 弁理士 三 和 晴 子



第1頁の続き

⑦発 明 者      井 上                  胤 博      岡山県倉敷市水島川崎通1丁目(番地なし) 川崎製鉄株  
式会社水島製鉄所内